

## 集団宿泊学習の改善に向けた提言と令和3年度の集団宿泊学習の実施状況（概要）

	令和3年度の集団宿泊学習の実施状況	令和3年度の集団宿泊学習の改善に向けた提言	備考
<p style="text-align: center;"><b>第①節 センターにおける改善の取り組み</b></p>	<p>⇒○ 令和3年度から実施。</p> <p>⇒○ 令和3年度から実施。</p> <p>⇒○ 職員が見つけた四季折々の動植物などを「五色台の見どころ」として、分かりやすくHP上で紹介することで、日頃より「ハプニングを活かした学習」への備えとしている。 (令和3年度：29件掲載)</p> <p>⇒○ 指導内容を具体化し、ストーリー一性が生まれるように提言の6項</p>	<p style="text-align: center;"><b>第3章 集団宿泊学習の改善に向けた提言</b></p> <p>(1) 野外体験学習（自然体験）の改善策</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「植物を観察させて特徴を伝える学習」ではなく、「植物を観察してその特徴を発見させ、自然が生き残るための工夫や自然と人間とのかかわりに気づかせる体験学習」を目指す。</li> <li>○新しい自然の観察方法として、「ミクロ冒険」の導入を提案する。これは、散策路や遍路道などを歩いている途中で、虫眼鏡を使ってアリのクモなどの昆虫を観察するものである。</li> <li>○予定になかった植物や昆虫などに会おうなどのハプニングに遭遇した時には、「ハプニングを活かした学習」を行う。</li> </ul> <p>(2) 野外体験学習（寺・遍路文化の学習）の改善策</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○遍路文化の学習内容を基礎的な部分に絞り込むとともに、中学生でも分かりやすい説明に心がけることが必要。</li> <li>○四国遍路については、「四国遍路とは？」、「もともとは弘法大師を信仰する僧の修行」、「庶民がめぐる巡礼への変化」という3項目に、遍路道については、「壮大な回遊型巡礼路として日本遺産に指定」、「歴史的面影が色濃く</li> </ul>	<p style="text-align: center;">別紙1</p> <p style="text-align: center;">別紙2</p>

	<p style="text-align: center;"><b>第3章 集団宿泊学習の改善に向けた提言</b></p>	<p style="text-align: center;"><b>令和3年度の集団宿泊学習の実施状況</b></p>	<p style="text-align: center;"><b>備考</b></p>
	<p>残る根香寺道は国の史跡、「丁石・道標とは？」という3項目に、それぞれ絞り込む。</p> <p>○専門職員が研修の一環として香川県内の23カ寺を遍路体験し、自分たちが感じたことを素直に生徒に伝える。</p> <p>○学習シートには、梵鐘のつき方のみならず、一連の参拝マナーも記載することが必要。</p> <p>○教授型中心の学習を改善するため、生徒が自主的に遍路について学ぶ新しいコースを提案する。現在行われている根香寺コースを活用する。</p> <p style="text-align: center;"><b>(3) 生徒向けのコース紹介ページの作成</b></p> <p>○生徒向けの情報発信は行われていないため、生徒が参加したいと思うコースを見つけやすくするため、全コースについて、何を学習するのか、どんな体験ができるのかを写真や動画などを使って分かりやすく紹介するページの作成。</p> <p style="text-align: center;"><b>(4) 野外炊事の改善策</b></p> <p>○野外炊事の目標を「五色台のしおり」に明記し、生徒にしっかり意識させる必要があることが野外炊事の課題である。</p>	<p>目を基本としつつ、指導方法を見直した。</p> <p>⇒△</p> <p>令和4年2月から3月にかけて一部実施（予定）。</p> <p>⇒○</p> <p>令和3年度版から改訂済み。</p> <p>⇒○</p> <p>令和3年度に「遍路文化コース」を創設。豊島中学校が類似のコースを実施</p> <p>⇒○</p> <p>令和2年度に既存9コース、新規1コース、計10コース分を五色台少年自然センターのHPに掲載済み</p> <p>⇒△</p> <p>本年度、宿泊をする予定である</p>	<p style="text-align: center;">別紙3</p> <p style="text-align: center;">別紙4</p> <p style="text-align: center;">別紙5</p>

備考	令和3年度の集団宿泊学習の 実施状況	第3章 集団宿泊学習の改善に向けた提言
	<p>た14校に実施したアンケート調査から、野外炊事における達成目標を設定した中学校は僅かに1校だけであったが（目標設定：責任感・連帯感、自然愛護、生活力）、目標設定することで、目標達成に向けた活動が自主的にできるようになったと回答している。</p>	<p>○野外炊事の改善の方向性として、「野外炊事の目標の設定→生徒、教員及びセンター職員での共有化と意識付け活動後の振り返り」を行うとともに、目標達成に向けた活動が自主的にできるよう、職員が生徒に適切な声をかけをすること。活動中及びその前後において常に目標を意識させることにより、野外炊事の持つ教育的価値を得ることが可能になる。また、これこそが、集団宿泊学習の野外炊事が一般キャンプ場での野外炊事との相違点である。</p>
別紙6	<p>⇒○ 「公共心」「生活力」「責任感・連帯感」「自己有用感」「自然愛護」の目標別に、声かけ事例を作成し、実際の現場で研修を実施。</p>	<p>○職員による声かけについては、集団宿泊学習においてよく行われる「カレ一作り」と「打ち込みうどん作り」における様々な場面を想定し、目標に応じた声かけを検討しておく必要がある。様々な場面と目標に応じた声かけの事例を検討した上で、センターのどの職員が担当になっても同じような声かけができるよう、声かけ事例集の作成と研修が必要である。</p>
別紙7	<p>⇒○ 年度当初泊を伴う集団宿泊学習を予定していた14の中学校に対しては、五色台少年自然センターの職員が学校を訪問し、説明。最終的に泊を伴う集団宿泊学習</p>	<p>○設定された目標によって係の役割分担を変えするなど目標別の取り組みを提案。</p>

備考	令和3年度の集団宿泊学習の実施状況	第3章 集団宿泊学習の改善に向けた提言
別紙8	<p>を実施した4校に設定を依頼。</p> <p>⇒△</p> <p>令和3年2月、清水委員に依頼し体験講習会を開催。しかしながら、集団宿泊学習の開始時期が10月と例年に比べ遅かったり、2年生が来た中学校もあつたりしたためか、チームビルディングを行った中学校は無かった。</p>	<p>(5) 新しい活動の導入</p> <p>○近年、チームのメンバーが何かの課題に一丸となって取り組むことにより、互いに協力し合う大切さを学ぶことができる“チームビルディング”が注目を集めている。様々なチームビルディングがある中で、新型コロナウイルス 感染症予防の観点から、いわゆる3密を回避しながら実施可能な「バケツツボール」を提案。</p>
別紙9	<p>⇒△</p> <p>令和3年10月人の手がほとんど加えられていない小原海岸において、磯に生息する生物を観察しつつ、海岸に打ち上げられている漂流物の観察を通じて、SDGsへの関心を高める学習を行った。</p>	<p>(6) 今後の検討課題（「持続可能な社会の担い手を育む学習」(仮称)の創設)</p> <p>○野外体験学習のコースの一つとして「持続可能な社会の担い手を育む学習」(仮称)の創設を提案する。ただし、現在のセンターには、こうした学習を実施するために十分な知識やノウハウが蓄積されていないため、令和3年度において、センターの専門職員が必要な研修を受講するとともに、どのような学習コースが実施可能か検討を行い、可能な場合は令和4年度から実施。</p>

	<p style="text-align: center;"><b>第3章 集団宿泊学習の改善に向けた提言</b></p> <p><b>(1) 中学校における改善の取り組み</b></p> <p>○各中学校は、今の時代にふさわしい集団宿泊学習の目的を参考に、2泊3日を通して全体の目標、野外炊事や野外体験学習などの個別の活動についての目標を設定するとともに、学校が作成する「五色台のしおり」に掲載し、目標への意識を持たせることに重点を置いた事前指導を実施する必要がある。また、事後においても、学習や活動を通して生じた良い変化が、学校活動や地域生活の充実につながる振り返り活動も重要である。</p>	<p style="text-align: center;"><b>令和3年度の集団宿泊学習の実施状況</b></p> <p>⇒○ 本年度、宿泊をする予定であった14校に実施したアンケート調査から、目標設定については、各学校の実態に合わせて教員、生徒、またはその両方で決定しているようである。また、宿泊した4校については、各活動の目標も「五色台のしおり」に記載していて、学校とセンターが共通の認識のもと指導に当たることができている。</p>	<p style="text-align: center;"><b>備考</b></p> <p style="text-align: center;">別紙10</p>
<p><b>第②節 中学校における改善の取り組みとセンターからの支援</b></p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p style="text-align: center;"><b>今の時代にふさわしい集団宿泊学習の目的</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 集団生活や野外炊事などを通して、集団として行動する規律を身に付けるとともに、思いやりの心や互いに協力する心、家族に感謝する心を醸成する。</li> <li>・ 体験・学習を通して自然や歴史・文化に興味を持ち、大切にすることを醸成するとともに、自分が住む地域にある良さに気づきかけとす。</li> <li>・ 初めて取り組む様々な活動を仲間と協力してやり遂げる体験を通して、困難と思うことにもチャレンジしようとする精神力を養う。</li> <li>・ 明確な目的意識を持って参加し、特色ある集団宿泊学習を実施することを通して、生徒の主体性や自主性の向上を図る。</li> </ul> </div>		

	第3章 集団宿泊学習の改善に向けた提言	令和3年度の集団宿泊学習の実施状況	備考
	<p>(2) 中学校に対するセンターからの支援</p> <p>○センターは次のような特定の目的に特化した日程例を提示するとともに、日程例以外の独自の活動についても可能な限り協力することにより、創意工夫した特色ある活動に取り組もうとする中学校を支援すべき。</p> <p>○具体的には、野外炊事に重点を置いた「とことん野外炊事」である。カレ一作りと打ち込みうどん作りの両方を2回ずつ実施し、一度目は、職員の手指導を受けながら行い、二度目は、生徒たちだけで協力して野外炊事をやり切るという日程例である。</p> <p>○野外体験学習を集中的に行う日程例として一つ目は、小・中規模校の場合で、日程の2日目と3日目に歴史・文化コースと自然体験コースの2種類の野外体験学習を行うものである。もう一つは、大規模校の場合の日程案で、初日に行われることの多いウォークラリーにおいて、「遍路に関する文化財を見つけてくること」という課題を付与して生徒に文化財の調査をさせた上で、入浴後の活動時間に、センター職員の指導のもと文化財について学習すれば、大規模校であっても歴史・文化と自然の両方を学習することが可能。</p>	<p>⇒×</p> <p>「とことん野外炊事」は2泊3日以上の宿泊を伴う集団宿泊学習の実施が前提であるため、コロナ禍における日帰り学習下では実施は難しい。</p> <p>なお、当初2泊3日の宿泊を予定していた詫間中学校では、「とことん野外炊事(打ち込みうどん作り)」の実施を予定していた。</p> <p>⇒×</p> <p>上記と同様で、泊を伴う集団宿泊学習下での実施が前提であり、4校しか宿泊していない令和3年度においては当日程を採用する中学校はなかった。</p>	

第3章 集団宿泊学習の改善に向けた提言	令和3年度の集団宿泊学習の実施状況	備考
<p>○集団宿泊学習は、基本的には中学校が主体となって行われるものであるため、様々な取り組みを行うとすれば、集団宿泊学習に関わる教員にとつて過度な負担になることも懸念される。そこで、学校から要請があれば、生徒への事前指導などの際にセンター職員が学校に出向き、集団宿泊学習で行われる学習や体験、センター利用上の注意点などについて、教員に代わって説明する支援を行ってもらいたい。</p>	<p>⇒△ 泊を伴う集団宿泊学習を実施した中学校が4校しかなかったためか、令和3年度は学校からの要請がなかった。 また、年度当初泊を伴う集団宿泊学習を予定していた14の中学校に対しては、五色台少年自然センターの職員が学校を訪問し、検定会報告書の趣旨を説明し、併せて学習日程等の相談に応じたこともスムーズな運営の一助になったと考えている。</p> <p>14校に実施したアンケート結果からも、8割程度の学校から事前準備の負担が軽減したとの意見があり、中でも活動スケジュール作成の業務が負担軽減となったという意見が大半を占めていた。来年度以降</p>	<p>別紙10 (再掲)</p>

	<p>第3章 集団宿泊学習の改善に向けた提言</p>	<p>令和3年度の集団宿泊学習の実施状況</p>	<p>備考</p>
		<p>も要請があれば学校に向くことで、教員の負担を軽減できるよう支援していきたい。</p>	